

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 安心長寿のまち・おうしゅうを目指して
- 8 財政状況の公表
- 10 節電とリサイクルで環境に優しい生活をしよう
- 12 チャレンジデー 2012 結果報告
- 13 I L C 希望のひかり
- 14 結 - ゆい - ～ 30 の地区振興会による協働のまちづくり実践事例～
- 15 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPO の輪
- 20 子そだて広場
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 21 地域安全情報
わが家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産

〈今月の表紙〉



第 28 回前沢牛まつりが 6 月 3 日、爽やかな晴天の下、前沢いきいきスポーツランドをで盛大に開催されました。来場者数は、主催する同まつり実行委員会の発表で 4 万 2,000 人。会場は、前沢牛を炭火で楽しむ家族連れなどでにぎわいました。特設ステージでは、恒例の牛の鳴きまねコンテストや厄年連の演舞などが行われ、来場者はイベントを楽しみながら肉質日本一の前沢牛を堪能していました。



繊細な花びらを崩さないように集中する

乾燥させたバラやアジサイをふんだんに使ったリースが並ぶ「シベリアアケエキ」。すぐ完売すると有名なインターネットショップだ。出店者である絵里子さんのアトリエは、江刺区愛宕にある。高校卒業後、進学を機に上京し、アニメーション制作会社や商業デザイン会社に勤務。利便を求め物欲をかき立てる都会の生活に疲れを感じ、27歳で帰郷した。30歳で結婚し、子育てに専念していたが、息抜きとなる趣味を求めてドライフラワーに出会う。もともと植物が好きだった花や草木に触れていると無心になり、心が癒された。さっそく洋書を取り寄せ、見よう見まねでリースを作ってみたが、うまく形にならない。花

や葉の機能的な形の美しさを生かしたい……。のめり込むのに時間はかからなかった。同じ素材でも、天候や採取時期で色や水分量が異なる。質感や鮮やかさにこだわり、乾燥には試行錯誤を重ねた。平成17年、評価を求めてインターネット・オークションに出品。落札価格に手応えを感じ、その後、ネット上に出店した。今では毎月20点ほどの作品を作り上げる。震災後、当たり前だった風景や日常に感謝して作るようになった。たんぽぽやハーブなどの身近な素材を使った作品に、その思いを込める。「色が抜けていくのも自然の美」とほほ笑む絵里子さん。四季を織り込んだその作品は、手にする人へ癒しを運ぶ。



ドライフラワーを通じて 自然の持つ美しさを伝えたい

小原 絵里子さん (52歳)
江刺区愛宕字橋本



おばら・えりこ◎昭和34年水沢区星ガ丘町生まれ。ドライフラワーアレンジメント作家。シベリアアケエキ店主。家族は夫、長女、長男、義母と猫1匹